

2026 年度 大学院 I 期(薬学研究科博士課程) 専門科目 出題意図

問題 1

分子標的薬である抗体医薬品について基本的知識を問う。がんの治療に用いられる抗体医薬品の標的分子、抗腫瘍効果を示すメカニズム、副作用を抑え効果を高める医薬品の開発等について理解し、論理的に説明する能力を問う。

問題 2

遺伝学および分子生物学の基礎知識として、常染色体顕性（優性）遺伝と常染色体潜性（劣性）遺伝の違いを理解しているかを評価することを目的としている。また、代表的な遺伝性疾患を具体例として挙げながら、遺伝子変異と発症との関係や遺伝形式の特徴を論理的かつ正確に説明する能力を測ることを意図している。

問題 3

問 1 ネフローゼ症候群の診断とその薬物治療、および副作用対策に関する知識を総合的に評価する。

→評価ポイント（ネフローゼ症候群（特に微小変化型ネフローゼ症候群）を推定できるか）

腎疾患の典型的所見の理解

臨床検査値の読解力

病態から疾患を推定する臨床推論

問 2 ネフローゼ症候群において 高コレステロール血症が生じる機序を理解しているかを評価する。

→評価ポイント（低アルブミン血症、肝臓でのリポタンパク合成亢進という病態生理を説明できるか）

ネフローゼ症候群の病態生理

脂質代謝の変化の理解

問3 抗核抗体陽性となる代表疾患（SLE）の理解を確認する。ネフローゼ症候群の鑑別として重要な自己免疫疾患を理解しているかを評価する。

→評価ポイント

自己免疫疾患の基礎知識

腎疾患の鑑別診断の理解

問4 ステロイド投与時の消化性潰瘍予防の目的でPPIが使用されることを理解しているかを確認する。さらにプロトンポンプ阻害（ $H^+/K^+-ATPase$ 阻害）という作用機序を説明できるかを評価する。

→評価ポイント

薬物の作用機序の理解

副作用予防のための併用療法の理解

問5 ステロイド長期投与に伴う骨粗鬆症予防としてビスホスホネートが使用されることを理解しているかを確認する。

→評価ポイント

ステロイドの副作用

骨粗鬆症予防治療の知識

問題 4

糖尿病性腎症から透析導入に至った患者の病態と透析患者の薬物療法について理解しているかを評価することを目的としている。透析患者特有の電解質異常や治療薬の役割を総合的に理解しているかを問う構成となっている。

問 1 2 型糖尿病治療の基本方針（食事療法、運動療法、薬物療法）を理解しているかを確認する。

→評価ポイント

糖尿病治療の基本概念

慢性疾患管理の理解

問 2 リナグリプチン（DPP-4 阻害薬）の作用機序を理解しているかを確認する。また、透析患者で使用しやすい特徴や腎機能低下でも用量調整不要などを理解しているかを評価する。

→評価ポイント

糖尿病治療薬の薬理作用

腎機能と薬物動態の関係

問 3 ポリスチレンスルホン酸ナトリウム（カリウム吸着樹脂）の役割を理解しているかを確認する。また、高カリウム血症の治療目的を説明できるかを評価する。

→評価ポイント

電解質異常の治療

透析患者の薬物療法

問 4 透析患者の薬物治療において、電解質異常、リン管理、血圧管理などを 包括的にフォローする必要性を理解しているかを確認する。

→評価ポイント（Ca・P バランス、高カリウム血症、血圧管理、透析患者の薬剤管理などの臨床的視点を評価する。）

透析患者の総合的薬物管理

合併症管理

問題 5

わが国の医療提供制度に関する基本知識として、医療保険制度の仕組み（図）とともに、図中の名称の組織等が具体的に何を指しているのかを理解しているのかを問う出題である。

問題 6

国民医療費の範囲、推移及び構成に関する基本的知識を確認する。

問題 7

問 1 医薬品を構成する複素環の性質について、基本的な知識を問う。

問 2 医薬品の化学的性質について総合的な知識を問う。

問題 8

問 1 有機化合物の反応性について、総合的な知識、理解力を問う。

問2 有機化合物の反応性について、総合的な知識、理解力を問う。

問3 有機化合物の反応性について、総合的な知識、理解力を問う。